

# 平和の王の入城

シリーズ～福音の力～

2020/11/15

## ルカによる福音書19章28～40節

イエスはこのように話してから、先に立って進み、エルサレムに上って行かれた。そして、「オリーブ畑」と呼ばれる山のふもとにあるベトファゲとベタニアに近づいたとき、二人の弟子を使いにしよそうとして、言われた。「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのないろばのつないであるのが見つかる。それをほどいて、引いて来なさい。もし、だれかが、『なぜほどくのか』と尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」使いにしよされた者たちが出かけて行くと、言われたとおりであった。ろばの子をほどいていると、その持ち主たちが、「なぜ、ろばをほどくのか」と言った。

二人は、「主がお入り用なのです」と言った。そして、子ろばをイエスのところに引いて来て、その上に自分の服をかけ、イエスをお乗せした。イエスが進んで行かれると、人々は自分の服を道に敷いた。

イエスがオリーブ山の下り坂にさしかかれたとき、弟子の群れはこぞって、自分の見たあらゆる奇跡のことで喜び、声高らかに神を賛美し始めた。

「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光。」

すると、ファリサイ派のある人々が、群衆の中からイエスに向かって、「先生、お弟子たちを叱ってください」と言った。イエスはお答えになった。「言っておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす。」

## エルサレムへ向かっておられたイエス様

- 「イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた。」9: 51
- 「イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって進んでおられた。」13: 22
- 「だが、わたしは今日も明日も、その次の日も自分の道を進まねばならない。預言者がエルサレム以外の所で死ぬことは、ありえないからだ。」13: 33
- 「イエスは、十二人を呼び寄せて言われた。「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子について預言者が書いたことはみな実現する。」18: 31

# キリスト時代のパレスチナ

Copyright by C. S. HAMMOND & CO., N. Y.



中流れる川 ..... 首都  
流れる川 ..... 道路、通商路

- ルサヤの四分領
- ピリポの四分領
- ヘロデ・アンティパスの四分領
- ローマ行政長官の支配領
- テカポリスの町
- サロメに与えられた領地
- デカポリス
- 独立領域
- ローマのシリア

\*テカポリスとアスカロンは、シリア州を治めるローマの支配者の下に独立を保った。

大海 (地中海)

アッラオはヘロダの死によって、ユダヤ、サマリヤ、イデマの支配者になった。彼の治世は、王位を刺殺され、没されたA.D. 5まで続いた。彼の領土は、その後ローマ行政長官の下に置かれた。

ヘロダの妹サロメは、アゾト、ヤムニヤ、フェマエリスを与えられた。これらは徐々に、アウグストゥスの皇子グイアや皇帝ネロの手に渡った。

## ガリラヤ



# 子ろばを引いて来なさい

- **イエス様一行はオリーブ山の麓に到着**
  - エルサレムまであと3kmほどの所
- **イエス様が弟子たちに不思議な命令を下す**
  - 「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどこいて、引いて来なさい。もし、だれかが、『なぜほどくのか』と尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」
- **出かけてみるとそのとおりだった**
  - 弟子たちはイエス様に言われたとおりにし、子ろばを引いて来た



# エルサレムの群衆に迎えられる

- 「人々は自分の服を道に敷いた」
  - 「彼らはおのおの急いで上着を脱ぎ、階段の上にいる彼の足もとに敷き、角笛を吹いて、『イエフが王になった』と宣言した。」(列王下9:13) > 王を迎える行動
- 群衆は「声高らかに神を賛美し始めた」
  - 「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光。」
- ゼカリア書の預言の成就
  - 「娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者／高ぶることなく、ろばに乗って来る／雌ろばの子であるろばに乗って。」9:9



# エルサレムの群衆に迎えられる

- 「人々は自分の服を道に敷いた」
  - 「彼らはおのおの急いで上着を脱ぎ、階段の上にいる彼の足もとに敷き、角笛を吹いて『イエフが王になった』と宣言した。」(列王下9:13) > 迎える行動
- 群衆は「**預言を知っていた!**」
  - 「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光。」
- **ゼカリア書の預言の成就**
  - 「娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者／高ぶることなく、ろばに乗って来る／**雌ろばの子であるろばに乗って。**」9:9



# 当時のエルサレム

東の門(黄金の門)





# 石が叫び出す

- **イエス様を王として迎えたエルサレムの群衆**
  - いよいよイエス様が王となってこの国をローマの支配から解放するために立ち上がるとの期待
- **イエス様を王として迎えることいやがったファリサイ派**
  - 「先生、お弟子たちを叱ってください」
- **王として迎えられることを拒まれなかったイエス様**
  - 「言っておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫び出す。」

全被造物が待ちわびた瞬間である

# 全人類に平和をもたらす王

- **ゼカリア書の預言の続き**

- 「わたしはエフライムから戦車を／エルサレムから軍馬を絶つ。戦いの弓は絶たれ／**諸国の民に平和が告げられる**。彼の支配は海から海へ／大河から地の果てにまで及ぶ。」9:10
- 戦いの王ではなく、平和の王として入城される

- **イエス様の敵はローマでなく人間の罪である**

- 人類最大の敵である罪に勝利し、永遠の平和を実現する
- その方法は武力ではなく自らの命をささげることである

# 三者三様の思い

- 弟子たちや群衆の思い

- 自分たちのためにイエス様がついに王として立ち上がる時が来た(歓喜)

- ファリサイ派たちの思い

- 王のように振る舞うことをやめてくれ(焦り・怒り)

- イエス様の思い

- ここを目指してガリラヤからの道を歩んできた
- 子ろばに乗ることで人類の王となることを明言した
  - ・ 群衆が誤解していることは分かっている
- しかし、待っている王座は十字架であり、戴く冠は茨の冠である(決意・高揚感)

弟子の群れはこぞって、自分の見たあらゆる奇跡のことで喜び、声高らかに神を賛美し始めた。「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光。」

すると、ファリサイ派のある人々が、群衆の中からイエスに向かって、「先生、お弟子たちを叱ってください」と言った。

イエスはお答えになった。「**言っておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす。」**